

9月4日

**凡 語**

ストープ列車の運行で知られる、津軽鉄道の津軽飯詰駅(青森県五所川原市)に、大津市出身のレイルウェイライター種村直樹さん(1936〜2014年)の記念文庫がある。なぜ津軽に? と思いつながら、訪ねた▼岩木山と津軽平野を望む木造駅舎は築92年。04年に無人駅となったが、住民グループ「飯詰を元気にする会」が中心になって改築。第3日曜に鉄道博物館として開いている▼一方、種村さんが収集した鉄道資料約9300冊を残すため、家族や熱心な読者らは寄贈先を探していた。関係者を介して同会と巡り合い、昨年11月、「汽車旅文庫」のオープンにこぎつけた▼事務室と宿直室を改装し、蔵書約3200冊を収めた。「鉄道旅行術」や同駅の記述がある「気まぐれ列車」シリーズなど著書のほか、雑誌「鉄道ジャーナル」は創刊号からそろそろ▼列車の見える窓辺に愛用の机や自筆原稿を置き、種村さんの書齋が再現されていた。長女の伏見ひかりさんは「父が喜ぶ姿が目につかぶ」と話す▼京阪石山坂本線の膳所本町駅近くで生まれ育ち、物心ついた時には鉄道好きだったという種村さん。津軽鉄道は、路線を応援しようと市民らがおでん電車やビール電車を走らせた石坂線と重なってみえる。これ以上ふさわしい落ち着き場所はなからう。